

メディカルカフェ1周年



メディカルカフェは県内の医師や看護師、患者家族らの「がん力フェとちぎ」（代表・平林かおる、県立がんセンター医師）が201

3年4月から原則第4日曜日の午前中、ニュースカフェで開いている。平林代表（自身、乳がん経験者だ。メ

ディカルカフェでは普段、

病院で医者に聞きにくいこ

とも話しましょう」と促す。

記念講演会には患者、家

族ら計約80人が参加した。

「がん哲学」を提唱する順

天堂大医学部の樋野興夫教

授が、患者の自尊心を守る

重要性などを強調。がん哲

学は、メディカルカフェ運

営の考え方のベースだ。

講演会に続き同カフェが

開かれ、相談者約20人が訪

れた。1年前は2人だけだ

ったが、大きく増えた。

がんを患う宇都宮市の渡

辺陽子さん（64）は、毎月の

ように出席してきた。「二

まんなかメディカルカフェで講演する樋野興夫教授と耳

を傾ける多くの参加者たち＝27日午前、宇都宮市江野町

の下野新聞NEWS CAFE

がんなどの悩みを抱える患者や家族と、医師や看護師らがお茶を飲みながら語り合う「まちなかメディカルカフェin宇都宮」が1周年を迎えた。記念講演会が27日、宇都宮市の「下野新聞NEWS CAFE」で開かれた。月1回の語らいに訪れた人は延べ約200人。癒やされて繰り返し足を運ぶ人も多いという。

（山崎一洋）

宇都宮 相談200人、リピーターも

がん患者に癒やし提供

ここに来て分かった。そういう気付きや共感を通じ

て、生きる時間は自分で決められなくても生き方は決められる、と実感できるようになつた」と打ち明ける。平林代表は「相談に訪れて、その後スタッフに加わった人がいる。患者さん同士のつながりが強まり、カフェに主体的にかかわってくれるようにもなつた」と

し、手応えを感じている。